



www.rotary.or.jp

日本で最初のロータリークラブは、1920（大正9）年10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌1921年4月1日に世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟承認されました。日本のロータリーは、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退。戦後1949年3月に復帰加盟します。その後の日本のロータリーの拡大発展には目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになりました。

基本はロータリークラブであり、一人ひとりのロータリアンであると思います。

防府 南園 義一
(2004 - 06年度R1理事)

日本は、現在34地区に分かれており、そのうちの1地区には、北マリアナ諸島、グアム、ミクロネシア、パラオという海外の地域が含まれています。日本国内のクラブ数は2,314、会員数9万7,822人（2008年5月末現在）となっています。

ロータリーの 基礎知識

日本編

THE ROTARY-NO-TOMO

ロータリー・ワールド・マガジン・プレス



会員の義務

例会の出席 ロータリーは、まず「例会出席から」といわれています。標準ロータリークラブ定款第9条に、出席に関して書かれていますが、その第1節には、「各会員は本クラブの例会に出席するべきものとする。(後略)」とあります。

例会への出席は、ロータリークラブの会員の義務の一つになっていて、基本的に週1回開催されます。やむを得ない事情により欠席をした場合は、その例会の前後14日以内に、ほかのロータリークラブの例会やそのほかロータリークラブ定款に定められている、他の会合に出席することによって、欠席をメイクアップすることができます。

年度の半期間において、メイクアップを含むクラブ例会出席率が50%に達していない場合、所属クラブの例会総数のうち少なくとも30%に出席していない場合、クラブ理事会が正当かつ十分な理由があると認めなければ、会員身分が終結することがあります。

日本の多くのクラブは、昼の12時30分～13時30分に例会を開催しています。朝または夕方に例会を開催しているクラブもあります。例会では、食事を共にし、その間、自分たちの職業や趣味などの情報交換をして、親睦や友情を深めるとともに、会員やゲストによるスピーチ（日本のロータリークラブではこのスピーチを「卓話」と呼んでいます）を聞き、ビジネスや社会情勢の最新情報や、文化、歴史、科学技術などについての知識を広めています。

日本国内各クラブの例会場所・時間は、『ロータリーの友』

3月号と9月号の折り込み、『ロータリージャパン』のホームページ www.rotary.or.jp で調べることができます。

会費の納入 ロータリークラブの会員は、会費を納入する義務があります。会費の金額、そのほかは、クラブによって異なります。

所定の期限後30日以内に会費を納入しない会員に対しては、クラブ幹事が書面で催告をして、その後10日以内に会費が納入されなければ、理事会の裁量で会員身分を終結しても差し支えないことになっています。

ロータリーの雑誌の購読 国際ロータリーの機関誌は、RI世界本部で発行している『THE ROTARIAN』です。このほかに世界各地で、31のロータリー地域雑誌が発行されています。これらロータリー関係の雑誌を合わせて「Rotary World Magazine Press」と呼びます。

ロータリーの雑誌の購読は、例会出席、会費の納入と合わせて、会員義務の一つになっています。ほかの二つには会員身分の停止という罰則がありますが、雑誌の購読には罰則がないといわれることがあります。しかし、それは、正確ではありません。雑誌を購読しないと、そのロータリークラブの国際ロータリーの加盟資格が一時停止処分を受けることになるのです。

日本では、日本語で発行している『ロータリーの友』が国際ロータリーから指定されているロータリー地域雑誌です。1953（昭和28）年1月に創刊、1980（昭和55）年7月号から、国際ロータリーの公式地域雑誌（現、ロータリー地域雑誌）に指定されました。



● 1920

日本最初のロータリークラブとして、東京ロータリークラブが誕生。

● 1923

関東大震災に対し、国際ロータリーならびに海外のクラブから多額の見舞金が届く。

● 1926

大阪で第1回日本ロータリークラブ連合懇親会が開催される。

● 1928

日本に第70区設定（満州を含む）、初代ガバナーに米山梅吉氏が就任する。

● 1929

京都で、第1回第70区大会が開催される。

日本のロータリーの先駆者



米山 梅吉 (よねやま うめきち)
(1868 ~ 1946)

日本のロータリーの創始者。1918年の渡米中、ダラスロータリークラブ会員の福島喜三次の紹介により、ロータリークラブと出会いました。帰国後の1920年10月、米山梅吉は東京RCを創立し会長に就任しました。これが、日本のロータリークラブの第一歩となりました。1926—27年度には日本人初のRI理事に就任。1928—31年度第70地区(当時)ガバナーを務めています。



芝 染太郎 (しば そめたろう)
(1870 ~ 1949)

日本ロータリー史上最悪の受難期とされる1938~40(昭和13~15)年代に、日本のロータリークラブの「専任幹事」を務めた人。愛媛県の吉田出身で、東京RC会員。「英語の達人」であり、昭和初期には『Japan Times』の社長でもありました。

1939年6月には、全権を委任され、一人アメリカのクリブランド国際大会に出席。得意の英語を駆使して、日本ロータリーの生き残りを賭け「日満ロータリー連合会」を誕生させたことで、知られています。



福島喜三次 (ふくしま きそじ)
(1881 ~ 1946)

日本人第1号のロータリアン。米山梅吉とともに日本にロータリークラブを創設した人。佐賀県の有田出身。

三井物産に勤め、1905年渡米、1915年にダラスRCに入会。1920年帰国し東京RC創立会員になったものの、大阪転勤により1923年、大阪RC創立会員ともなりました。この年に関東大震災が発生、彼はクラブ幹事として、世界の各クラブからの救援物資を東京へ輸送するなど、大活躍しました。



手島 知健 (てしま ともたけ)
(1885 ~ 1968)

1952—54年度RI理事(日本人で3人目)。東京RC会員。1949年、東京RCが戦後国際ロータリーに復帰したときの、1949—51年度第60区(当時は日本全土で1地区を形成)のガバナー。

あふれる国際性と洗練された物腰をもつ彼は、戦後、日本ロータリーが再出発したときの、大きなけん引役となりました。かつて、RIの日本語翻訳決定権は彼に委譲されており、「四つのテスト(The Four-Way Test)」の翻訳をとりまとめ、定訳をつけたことでも知られています。



東ヶ崎 潔 (とうがさき きよし)
(1895 ~ 1992)

日本から出た初のRI会長(1968—69年度)。会長時のテーマは「参加し敢行しよう!(PARTICIPATE!)」。1949年、東京RCに入会。1957—58年度第355地区ガバナー、1963—64年度RI理事。

アメリカ・サンフランシスコ生まれの彼は、戦後ロータリーの先達者・芝染太郎と同じく、『Japan Times』社長を務めました。国際基督教大学の創立者の一人でもあります。「ジョージ」という名で、世界中のロータリアンに親しまれました。



向笠 廣次 (むかさ ひろじ)
(1912 ~ 1992)

日本から出た2人目のRI会長(1982—83年度)。国際的にも著名な精神科医でした。テーマは「人類はひとつ 世界中に友情の橋をかけよう(MANKIND IS ONE Build Bridges of Friendship Throughout the World)」。1967—68年度第370地区ガバナー、1978—80年度RI理事などを歴任。生まれは福岡県の久留米市。大分県・中津RC会員。

*「喜三次」の読みには「きそじ」「きさじ」の2説があります。

● 1935

ポール・ハリス夫妻が、1934—35年度ロバート・ヒル国際ロータリー会長とともに来日する。

● 1940

臨時総会で、国際ロータリー脱退を決議。

● 1946

米山梅吉氏、福島喜三次氏逝去。

● 1949

ジョージ・ミーンズ事務総長来日。日本の国際ロータリー復帰が承認される。

● 1951

海外からのロータリー財団奨学生第1号ビューター君が、東京大学に入学。

クラブ・地区の活動

(地域社会のために)

日本国内にある 2,314 のロータリークラブならびに 34 の地区では、クラブ会員の専門分野を生かし、それぞれの地域の特色に合わせた、多岐にわたる活動を展開しています。

特に、地域社会に根差した社会奉仕活動は盛んで、地域のニーズを踏まえ、特色のある奉仕活動を実施しています。近年は、環境問題、特に温室効果ガスの削減が話題になっていますが、環境保全に配慮して山に樹木を植えたり、市民の憩いの場である公園に植樹するといったもの、これらの問題について地域社会の人たちに知ってもらうための講演会など、さまざまな取り組みをしています。

地区やクラブ単位で、地域の子どもたち出演の市民対象チャリティーコンサートを開いたり、養護施設や老人ホームの訪問・支援をしているクラブもあります。長年職業に携わり地域社会に貢献してきた会員以外の人たちを表彰するという活動を続けているクラブもあります。

会員には、さまざまな分野の専門家がいますから、「なんでも無料相談」を企画すれば、弁護士、司法書士、建築士、医師、とたちまち相談員がそろいます。自分の職業経験を中学生や高校生に話して職業選択のヒントを提供する「出前講座」や、会員の経営する会社や商店に小学生や中学生



を受け入れて働くことを体験してもらうなどの活動をしているクラブもあります。

クラブ・地区の活動

(世界のために)

海外の人たちへの支援としては、タイ、フィリピン、ネパールなど、アジアの人たちへの活動が中心ですが、もちろん、アフリカや南米など、世界各地の人々へも手を差し伸べています。その活動は、国内での活動と同様に多岐にわたります。

安全な飲み水を確保できない人たちのために井戸を掘ったり、浄水器を設置したりしています。また、識字能力の向上のために、学校をつくったり、教科書や教材を贈っているクラブもあります。さらに、医療を簡単に受けることのできない地域に出かけていき、歯科医が歯科検診や治療を行ったり、眼科医が白内障の治療をしたりという活動も行っています。

2008年5月2日の夕方から翌朝にかけてミャンマーを襲ったサイクロンの被害者を救援するために、日本中のクラブからの義援金がUNHCRや赤十字を通して送られました。中には、直接ミャンマーの被災地に行き、救援物資を渡した会員もいます。外国人が救援活動に入ることが難しかった被災地にいち早く入ることができたのは、ポリオワクチンの投与、そのほかの活動を通して、同国にさまざまな支援をしてきた日本のロータリーの実績があったからです。

「ロータリーは自分が努力をしないと楽しくならないところです」

酒田 茂木 栄一

職業奉仕を重視する日本のロータリアン

ロータリーの奉仕は、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の4つに大きく分類することができます。これをロータリーの四大奉仕部門といいますが、日本のロータリアンは、中でも、職業奉仕をとっても大切なものと考えています。

企業の不祥事が続く昨今、企業倫理の問題を重視し、その問題について、常に考え、自らの襟を正しています。

また、自分の職業やその専門性を活用して、地域社会や国際社会に貢献しています。その例としては、小学校や中学校などに出かけて、自分の仕事について話したり、地域の祭りやイベントで法律や医療の無料相談を行ったり、また、海外へ医療奉仕に出かけたりする活動が挙げられます。

2005年4月には、職業倫理をテーマにRI会長主催祝賀会議が、東京で開催され、日本全国から集まったロータリアンによって、活発な討議がなされました。

1952

7月から第60区を分割。第60区と第61区の2地区となる。

1953

『ロータリーの友』が創刊。

1961

東京国際大会が開催され、参加74か国、2万3,366人を数え、新記録をつくる。

1968

7月、東ヶ崎潔氏が国際ロータリー会長に就任する。

1978

東京国際大会が開催され、参加国95か国、3万9,834人を数え、新記録をつくる。

クラブ・地区の活動

(新世代のために)

日本国内のロータリークラブや地区では、地域の若い人々を育てたり、支援したりする活動に力を注いでいます。以下に、その一部を紹介します。

インターアクトクラブ 1960年代に入って、世界中の青少年が共に活動できるような組織をつくろうという機運が高まり、1962年、インターアクトクラブ（Interact Club、IAC）が次々と世界各地に創立されました。14～18歳の高校生の年代が対象で、卒業と同時に会員資格が失効します。日本で最初のIACは、1963年6月27日に創立した、宮城県の仙台育英高校IAC（現仙台育英学園高校IAC）です。2番目は西京商業高校IAC（現西京高校IAC）、創立は1963年6月28日で、仙台育英高校IACとはたった1日遅れで創立されています。

ローターアクトクラブ インターアクトクラブを継続するものとして、1968年にローターアクト（Rotaract Club、RAC）が設立されました。18～30歳を対象に、奉仕を志向する市民と指導者を育成するため、ロータリークラブが提唱する世界的な団体です。

日本最初のRACは、1968年6月1日に創立した、埼玉県の国際商科大学RAC（現川越RAC）です。

青少年交換 1974年に、青少年交換（Youth Exchange）が始まりました。国際理解と親善を促進することを目的として、15～19歳までの高校生を対象に、1学年度間、



または休暇期間中、海外へ交換留学・交換旅行をする制度です。広く一般に公募されます。

日本でも多くの高校生を海外へ派遣し、多くの高校生を受け入れています。青少年交換の相手国としては、アメリカとオーストラリアが圧倒的に多く、そのほかに、南アメリカ、メキシコ、バミューダ諸島、ブラジル、コロンビア、マレーシア、韓国、タイ、フランス、ベルギー、ハンガリー、ドイツ、スウェーデン、フィンランド、デンマーク、カナダなどがあります。

RYLA Rotary Youth Leadership Awards（ロータリー青少年指導者養成プログラム）の頭文字をとってRYLA、ライラといいます。14～18歳、19～30歳までの若者のためのプログラムで、国際ロータリーが1971年に公式に採用しました。対象年齢が二分化されているのは、多様なニーズと成長過程に対応できるようにするためです。

RYLAは、若者の指導者および善良な市民としての資質を伸ばすことを目的としたプログラムです。その実践は、セミナーか指導者キャンプのどちらかの方式に基づいて、クラブまたは地区レベルで行われます。

日本で初めてRYLAが実践されたのは、1976年、当時の第366地区（大阪・和歌山）です。



職業奉仕を実践する企業にとって、その活動を次世代に安定的に引き継ぐことで、初めてロータリーの提唱する理念が生きてきます。

仙台 大島 達治

● 1980

『ロータリーの友』が、公式地域雑誌に指定される。

● 1981

国際ロータリー事務局日本支局（現国際ロータリー日本事務局）が開設される。

● 1982

7月、向笠廣次氏が、国際ロータリー会長に就任する。

● 1986

日本の会員数が10万人を突破する。

● 1988

広島で第4回ロータリー平和会議が開催される。

クラブ・地区の活動 (ロータリー財団)

日本のロータリアンは、R Iのロータリー財団にも、多額の寄付をしています。また、そのプログラムを通じて、さまざまな活動をしています。

ロータリー財団のプログラムには、「教育的プログラム」「人道的補助金プログラム」「ポリオ・プラス・プログラム」の3つがあります。個々のプログラムの説明は、国際ロータリー提供の「ロータリーの基礎知識」(P33～40)に譲り、ここでは日本にかかわりのある幾つかの事例をご紹介します。

ロータリー財団国際親善奨学生 1950年に、日本から初めてのロータリー財団国際親善奨学生 (Rotary Foundation Ambassadorial Scholars) が旅立ちました。1951年の第2期生には、元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏がいます。日本からの奨学生は年々増加を続け、その累計は8,040人(男2,850人、女5,190人)(2006～07年度現在)にも及びます。

奨学生たちは、海外でそれぞれの専門分野を学び、その後、幅広く活躍しています。日本の場合は、緒方貞子氏にあこがれてロータリー財団の奨学金を希望する学生も多く、帰国後、国際連合の職員として働く例も少なくありません。また、ロータリー精神を理解し帰国後、財団学友として、ロータリアンたちとともに奉仕活動に取り組む例も多く見られます。音楽関係の学友が、ロータリークラブのチャリティーコンサートに出演することなどが、その例として挙げられます。

2005年12月には、日本で最初の財団学友によるロータリークラブが第2780地区(神奈川県)に創立、2007



財団学友のロータリアンたちは、語学力を生かして、ロータリー研究会で通訳を務めました

年10月には第2660地区(大阪府)に創立し、学友のネットワークを生かした活動をしています。

ロータリー世界平和フェロー (Rotary World Peace Fellow)

世界を枠とする競争制によって、全世界から世界平和フェローは毎年60人が選ばれ、世界に6つある「平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センター」で学んでいます。

日本では、東京都三鷹市の国際基督教大学(ICU)内にロータリー・センターが置かれていて、海外からの学生が、国際問題などについて研究しています。また、日本からも、現在数人のフェローが海外のロータリー・センターで研究をしています。

2006年3月、東京・青山の国連大学では、全世界の国際問題研究のためのロータリー・センターで学ぶフェローと指導している教授、ロータリアンが一堂に会して、研究成果や体験、プログラムの現状報告と課題、希望などについての意見交換であるワークショップ「The International Workshop on Educating Peacebuilding」が開かれました。

ポリオ撲滅 1985年2月、ロータリー創立80周年に当たって、国際ロータリーは、ポリオ・プラス計画を発表しました。

日本国内では、募金総額40億円を最終目標として、1986年7月から、日本ポリオ・プラス委員会により、5年計画のポリオ・プラスの募金キャンペーンが始まりました。チャリティーオークションや、街頭募金などの各クラブや地区での積極的な取り組みのおかげで、このキャンペーンが展開されていた、1986年7月から1991年6月までの5年間で、目標額をはるかに超える、約49億円の寄付金を集めることができました。

その後も、ポリオのための資金援助を続けていますが、それと並行して、日本のロータリークラブの会員は、世界

世界6つのロータリー・センター

国際基督教大学(日本)、クイーンズランド大学(オーストラリア)、ブラッドフォード大学(イングランド)、サルバドル大学(アルゼンチン)、カリフォルニア大学バークレー校(アメリカ)、デューク大学およびノースカロライナ大学チャペルヒル校(共同開設・アメリカ)

● 1989

女性会員の入会が認められる。第2500地区・北海道清水(現、清水RC)に日本初の女性会員が入会する。

● 1995

阪神・淡路大震災が起これ、国内外から多くの救援物資が届く。

● 1996

元ロータリー財団親善奨学生の緒方貞子氏が、ロータリー国際理解賞を受賞する。

● 2002

平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センターが、国際基督教大学に設立される。

● 2004

日本で3回目の国際大会が、大阪で開催される。



各地で実施されているポリオワクチン一斉投与に何度も参加しています。1994年には、非ロータリー国である中国でも行っています。また、1995年、第2650地区（福井県・滋賀県・京都府・奈良県）はWCS（世界社会奉仕）の活動の一環として、カンボジアでワクチン一斉投与を行い、その後、モンゴル、ネパール、フィリピンなど、毎年継続し、2008年も太平洋のソロモン諸島でと、14年間にわたって活動を続けています。

2002 - 03年度、国際ロータリーが2005年までに全世界からポリオを撲滅するための第2の募金キャンペーンを発表すると、「日本の会員は全世界の1割だけれど、世界の2割の貢献を」ということで、積極的に募金キャンペーンを展開しました。

2005年6月に開催されたロータリー100周年を祝う、シカゴ国際大会で、ポリオ撲滅が99%まで達成され、ポリオのまん延国は4か国を残すだけとなりました（2007年2月現在）。

2007年、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団からの1億ドルのチャレンジ補助金に応じて、日本のロータリークラブや地区でも、ポリオのない世界の実現に向け、同補助金と組み合わせ資金を集めるための努力をしています。

ほかに類を見ない世界的なネットワークは、ロータリーの財産です。

八戸 富岡 義勝

(財)ロータリー米山記念奨学会 日本が誇る「多地区合同奉仕活動」

国内で学ぶ外国人留学生を支援する、日本の全ロータリークラブによる「多地区合同奉仕活動」です。これまでに支援した奨学生は113か国1万4,500人にのぼり、日本の民間奨学財団では最大規模です。

“日本ロータリーの父”米山梅吉氏（1868-1946）の没後、彼の功績を偲ぶために何か有益な事業を、という声がロータリアンから上がりました。

世界に“平和日本”を理解してもらうためには、まずアジア諸国の理解を得なければならない。アジアから一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、互いに信頼関係を築くことこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか——。こうして東京RCで始められた「米山基金」が、全国ロータリークラブの合同事業として広がり、1967年7月、文部省（現文部科学省）から財団法人の許可を得るに至りました。

米山奨学事業の特長は、世話クラブ・カウンセラー制度によって、奨学生一人ひとりが日本での留学生活において精神的な支えを得、かつロータリー活動に密着することができる点にあります。

ロータリーが求める平和の精神を胸に刻んで巣立った元米山奨学生には、韓国駐日大使やスリランカ警察庁長官、台湾の故宮博物院院長のほか、韓国・台湾でガバナーを務めた人もいます。これまでに90人がロータリアンになりました。元奨学生を中心に組織される米山学友会は海外を含めて29あり、災害時のボランティア活動やシンポジウムの開催など、社会に貢献する活躍をしています。



「サインだけのメイクアップでは
笑顔のみやげはなかったな」と心地よく帰りました。

名古屋みなと 高田 和宏

● 2005

ロータリー創立100周年を記念して、日本国内でも、さまざまな社会奉仕プロジェクトを実施。

とにかく、ロータリアンとして尽くす、奉仕をするということです。

東京三鷹 谷鹿 光治



日本国内のロータリークラブ
の活動やそのほかの
ロータリー情報については、
『ロータリーの友』と
そのウェブサイト
『ロータリージャパン』
www.rotary.or.jp を、
ご覧ください。
日本全国のクラブの
例会一覧表を見たり、
地区やクラブの
ウェブサイトに行くことも
できます。



魅力あるクラブは、活気あふれた例会と意義あるプロジェクトが基本要素です。

横浜南 中山 義之 (1994 - 95 年度第 2590 地区バスターガバナー)